

新しい県立図書館に向けた考え方(検討案)

(「明日の県立図書館づくりプロジェクト」)

概要

これまでの県立図書館の運営を振り返るなかで見えてきた、行き詰まっている状況を、3つのテーマで転換できるか検討する。①は、資料を県域全体に提供していく都道府県立図書館の基本的な役割を、市町村図書館等との協働により実現しようとするもの。②はレファレンスや資料提供の機能を、県立の専門機関の資料室等との連携により強化していくもの。③は、県立図書館が施設として存在していく形を新たに創り上げていこうとするもの。

この間十数年の県立図書館(県立・川崎)の運営

○検討してきた方向性*1のなかでの主な取り組み

- ・機能面での再編 ⇒ 県立(社会・人文系)、川崎(産業・技術系)
- ・市町村図書館との役割分担 ⇒ 専門的なサービスを支える資料の収集
- ・課題解決型モデルの提示 ⇒ ビジネス支援(県立:経営・経済、川崎:産業・技術)
- ・ネットワークサービスの機能 ⇒ KL-NETの運営(参加機関数・対象の拡大)

○これまでの流れと予想される姿

- ・継続的な資料費の削減
- ・利用の伸び悩み
- ・常勤職員削減・高年齢化
- ・施設の老朽化・狭隘化

○現場レベルで行ってきた独自の事業展開

- ・広報・普及事業
- ⇒ イベント等の充実(講座、展示、刊行物作成)
- 「数値目標」は、入館者数、貸出冊数ではなく、イベント参加者数、展示回数などを重視

行き着くところはいわゆる「純化」で、古びた“倉庫”となるか？

図書館づくり3つのテーマ

テーマ① 市町村図書館等と協働する図書館づくり

- 目指す姿: 図書館間の協力関係により特定分野の蔵書を構築し、県域全体に資料・情報を提供していく。
- 取り組む施策例: デポジット・ライブラリー構築(市町村図書館*2、県立高校*3との連携による。収集する分野を設定し資料群を構築していく。)

*収集分野の例と協働対象の図書館

	市町村図書館等	県立高校
絵本・児童書	○	
ヤングアダルト	○	○
人物・かながわ資料関係	○	
科学・工学関係	○	

テーマ② 調査研究・相談機能を強化する図書館づくり

- 目指す姿: 県機関の資料室と県立図書館の業務の一体化を進めて、よりいっそう調査研究・相談の要請に応えていく。
- 取り組む施策例: 県立専門機関の図書館システム統合*4

テーマ③ 『生きる力』を伝える図書館づくり

- 目指す姿: これまで行ってきたイベント(講座、展示、刊行物作成など)の位置付け(広報・普及)を捉え直して*5、未来を展望し、人づくり、社会づくりにつながる「学びの場」「発信の場」としての役割を担う施設となっていく。⇒「未来の人づくり・社会づくりを担う図書館へ」

*テーマ③について:

- ・「生きる力」は近年、教育分野でよく使われるキーワード。ここでは、改正教育基本法(平成18年)に盛り込まれた生涯学習の理念*6を背景とする。
- ・博物館、美術館における「教育普及」機能(展示、ワークショップ等)*7を事業のモデルとして参考にし、工夫を加えていく。

■取り組む施策例:

- 参加・体験型イベント(inputからoutputへ)
絵本、自分史、社史、ブログなど表現物を作成し、社会への情報発信につなげていくワークショップ(個人・団体対象)
- 特定のテーマに沿った資料の収集・イベント
- ・持続可能な開発のための教育(ESD)*8を支える資料群(環境、エネルギー、社会格差、ジェンダー、福祉、貧困、地域の文化財...)の構築 ⇒ 「未来の社会づくりのヒント」
- ・「心が元気になれる図書館(心の健康サポートセンター)」づくり
- ・時事問題をテーマとした連続講座と情報の引き出し方のセミナー

利用する側からの読みたい、知りたいという要求に、幅広く応えていく図書館(サービスという考え方)

伝統的図書館モデル

対称関係にある利用者へのアプローチ

図書館側の企図する内容が、利用する側に確実に伝わるよう事業を組み立てていく図書館(プログラムという考え方)

ターゲット設定モデル

注釈・補足

- *1 これまで平成8年(リニューアル計画)、19年(あり方報告)、24年(実施計画)といった報告書を県立図書館と生涯学習課でまとめている。
- *2 他県の事例として、市町村図書館が資料を除籍する前に、横断検索を行い、その資料を他の図書館がどこも持っていないと確認された場合は、県内で最後の1冊の資料であるとして原則永年保存する試みがある。(川崎図書館ではすでに企業資料室や研究所と共同して「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」を開設・運用している。)
- *3 ライトノベルの共同コレクションを*2と同様の仕組みで現在、県立高校が行っている。書庫の収容能力に限界があるため、これを県立図書館で引き受け充実する。
- *4 県立の専門機関(博物館、美術館、試験研究機関等)の図書室の資料情報を、県立図書館のシステムに統合し、業務の一体化を進める。このことで、それぞれの図書室が持つ特徴ある資料の提供の機会を増やしたり、レファレンスへの対応を強化したりする。
- *5 単純にイベント等の数や種類を増やしていくということではなく、特定のテーマや目的を設定して事業を展開していくということ。
- *6 (生涯学習の理念) 第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。
- *7 博物館の機能として、資料収集、整理保管、調査研究、教育普及がある。教育普及担当の専門職員「ミュージアム・エデュケーター」の養成が文化庁により進められている。
- *8 Education for Sustainable Development の略。平成14年の国連総会で、日本の提案により決議。『一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育』と定義(「わが国における「ESDの10年」実施計画」より)。第2期教育振興基本計画(平成25年)において主な取組の例として言及。

「明日の県立図書館づくり」プロジェクト経過概要

1 プロジェクトについて

平成25年6月より県立図書館の職員（6名）により、①長期的に目指すべき県立の図書館像（将来構想）の具体的立案、②今からでもできる図書館づくりの取り組み（事業企画）、について他施設の見学などを行いながら検討している。

2 作業の進め方

- ・ グループウェアでメンバー間の情報・意見交換、共有をはかりながら、月2回（第1、3木）の会議で進めていく。
- ・ 発想を広げたり、刺激を受けたりするため学習会を適宜開催する。
- ・ 毎月第2木の職員研修で状況を報告する。

3 これまでの経過

開催日	主な協議内容
第1回（6月6日）	・ 副館長、企画サービス部長より趣旨説明 ・ 会議の持ち方等進め方について確認。
第2回（6月20日）	・ 他の都道府県立図書館等の運営方針等について ・ 将来構想について
学習会（6月28日）	講師：図書課長（都道府県立図書館の運営方針等の記述項目を「望ましい基準」の各項目に分類し分析したことに関する講義）
第3回（7月4日）	・ 「望ましい基準」等の枠に収まらない方針を出している事例 ・ 他分野の政策ビジョン例について ・ 学習会の見学先、講師等の候補選定 ・ 事業企画について
第4回（7月18日）	・ 学習会の内容決定 ・ 事業企画について
学習会（7月29日）	湘南高校図書館見学（YA 図書（ライトノベル）コレクションの共同利用の意義について等）
第5回（8月1日）	企画書のフォーマットの決定
学習会（8月13日）	武蔵野プレイス見学（「図書館」「生涯学習支援」「青少年活動支援」「市民活動支援」の4つの機能が融合した施設のねらいについて）
第6回（9月5日）	・ 事業企画について ・ 将来構想案について
学習会（10月9日）	横浜美術館見学。教育普及専門の学芸員を講師に学習会。
第7回（10月17日）	・ 将来構想について ・ 事業企画の具体化について

*事業企画について

いわゆる「1枚企画書」のフォーマット（ねらい、現状と課題、効果、類似例、人・予算）に沿って、事業を考案するもの（自由な発想を活かすため「できるかもプラン」と命名）。ランチマップやブックカバーの作成といったものまで幅広く検討中。